



中村俊定文庫
文庫 18
35



疑源抄

山崎宗鑑

抑此疑源按之起人皇百卷之出門後
振東漢中口人大原冬歲南昌之此二條前
南中兼後朝古少歲曰自余之時亦每每
初國東供許之時此語八族之概可成也
卜下人始身南好茲者京漢之此在也
之書作上今上歲明言不漢去秋亦好也
他語之去作上上受唯似也及養中已授我
主業也去去作不不奉以月明言卜下
而前二于領學仕校宿改三日互此去兼使
奉年未 川條之十亦老亦亦朝長
大代之強 始身南好宋鑑
宋鑑自序法



疑源抄

句数度

一 春秋ハ三句ヨリ五句迄モツクヘシ、
 一 夏冬ニ神祇尺教、旅、遠、懐、山類、水邊、居所、
 一 夜分等、一句ニテモ不ラ苦、三句迄モ不ラ苦ツクヘシ、
 一 戀ハ二句ヨリ五句迄モツクヘシ、
 一 人倫、衣類、^儀、^事、^物、^降、^物、^生、^類、^國、^名、^名、^所、^食、^物、^藝、^能、^植、^物、^時、^分、^等、^ハ、^一、^句、^ニ、^テ、^モ、^二、^句、^ニ、^テ、^モ、^吉、



發句切レ字

一 哉、けり、たり、めり、や、ぞ、し、じ、き、ぬ、つ、む、
 か、いつこ、いつく、いつれ、いかて、いさ、何なぞ、

なと、いく、さぞ、こそ、た、を、もなし、いなし、
もかな、下知、

已上連歌ノ如ク成ヘキカ

可隔三句物

月、日、星、如此、天象ノ間之
一降物ト降物ノ間、一從耳物ト同間
一名所ト名所、國ノ名間、一人輪ト人輪、人名
一草木ト草木、竹ノ間、一鳥治虫歌ノ間
如此替リタル間、皆二句也

可隔三句物

一同字、日、風、雲、山、浦、波、水、道、夜、木、草、
鳥、獸、虫、戀、旅、音、居、所、速、懷、神、祇、尺、教、衣、類

五句可隔物

一月、田、烟、季、夢、行、枕、衣、舟、渡、松、

面八句ノ変

一發句連歌 同前ナルヘキカ、
一朕同前、手ニ六ノ字ト留リキラウ之
一第三テトマリカ、はね字成ヘシ
子留リ、もたし留リハ稀成キ之
是迄ハ少指出タル変不ラキカ、四句目よりかろく

しきやうにスヘシ、古人名、同名字、宮殿ノ名、名所
神祇、尺教、戀、無常、述懐、同字、此分キラウ之
親子ノ沙汰、述懐ニ不用、故ハ句ノ内キラハス、

賦物之支

一定、ワリタル文字トテモアラザレバ、五ヶナト、六ヶモナト、
發句ニシタカヒ、何ニテモ興有字ラト也、假令山
櫻ト云フ發句ニ、犬ノ字不可取、犬ハ山ニ渡
ル故ナリ、蜂カ魚カニテ可然、自余准之、一字
露顯、二字返音、以下百韻俳諧ニトルハカラス

居所躰ノ分

一門、背戸、窓戸、障子、蔀、格子、玄關、家、庵、
屋、宿、宅、里、屋、祿、屋、形、城、棟、葺、瓦、軒、垣、
築地、壁、床、亭、書院、棚、帳、内、二階、廣、間、樓、
隣、欄、干、天井、座敷、臺、所、廊、下、風呂、湯、殿、廁

同用之分

一庭、坪内、外面、簾、屏、疊、廉、路、糸布、

山類躰ノ分

一山、峯、高根、嶽、岡、洞、岨、尾上、麓、坂、谷、嶋

同用之分

一瀧、杣木、材、炭、竈、

一山、^{ツギ}杣木之類、山姥、山人、山姫、山鳥、類、山有、
泊瀬寺、橋、浮嶋、松嶋、小嶋、小塩、富士、浅間、
瀧川、畑、葛城、九折、

非山類、分

一就鳥峯、雪山、山賤、山鳥、山科、宮、吉田川、宇治川、
川嶋、富士川、三嶋、伊豆、嶋、國、法路、木曾路、鈴鹿路、
川嶋、三輪、崎、吉野、真、山野、真、杣人、炭燒、小塩、
野邊、小初瀬、高砂、松、初瀬路、瀧、川、岩橋、氷室、

薪、爪木、スツ野、狩衣、

水邊躰之分

一海浦、江、湊、濱、堤、渚、嶋、沖、岸、汀、沼、川、
池、泉、洲、淵、瀨、瀧、井、溝、津、崎、

同用之分

一水、氷、波、塩、泡、清水、氷室、湖、伽、

同躰用之外

一浮木、舟、流、塩屋、塩燒、海、魚、水鳥、釣、垂、
蛙、浮桶、蜻、壺、下、樋、筏、篋、萍、芝、類、和、布、之、類、

網、釣瓶、

同水邊

一住吉神、橋姫、放生、三輪カ崎、松ヶ崎、須磨、明石、清見、浮難波津、三嶋津國志賀、松浦、有閑、松島、小嶋、御後、つらり田井、月出しを、

非水邊ノ分

一難波寺、志賀、住吉、佐野、後、須磨、上野、明石、岡、粟津カ原、松浦姫、大井、白川、関、高津、宮、天津橋、淡川、三瀬川、夢カ浮橋、宮屋、軒北、玉水、月の氷、苗代、田筑、菅、袖行水

硯水、詞の海、布さうす、横川、手水、鷺、鴨、螢、

和漢篇

一大概、可用、非諧之法ヲ変
一和漢共、以五句為限、但至、漢對可及、六句事
一景物、草木等、員數、和漢、可通用
一和漢、共、一之物者、和漢、共に、出次第、可為、但和之方、從早、為出者、漢、上、重名、用、可有、二句之物者、一也、入韻之字、連歌之法、度、か、はらす、何様之事、をもすべし、但、万葉書、分、字等、不可用之

疑源抄卷第上終

大永三歲八月八日 山崎宗漢作書

日兼應貳年

己卯三月下旬

盛成書

余友堀田氏紀盛成入道道甫
隱士寄心花月覃思歌酒
追慕陶靖節想像劉伯
倫可謂風怀人豪也曾使
斯一篇附與予嗚呼是歲
之春三月二十四日下世矣於是修
補以爲後來信云爾

如松子
陸福

昭和十九年七月十八日寫

根子持の同文屋の証原めは惜しくも焚えしかば
 尾の徳氏も幸ありしことと申すなりと申すに
 尾の徳氏が幸ありしことと申すなりと申すに
 根子持の同文屋の証原めは惜しくも焚えしかば
 尾の徳氏も幸ありしことと申すなりと申すに
 尾の徳氏が幸ありしことと申すなりと申すに
 根子持の同文屋の証原めは惜しくも焚えしかば
 尾の徳氏も幸ありしことと申すなりと申すに
 尾の徳氏が幸ありしことと申すなりと申すに

昭和元年八月下流

杉林の証

